

参考資料：2026年04月21日

ニュースリリース 経営・財務 IT・DX

共同配送コンソーシアム「CODE」を発足

業界横断の荷主連合により、物流データに基づいた支線配送の効率化に挑戦

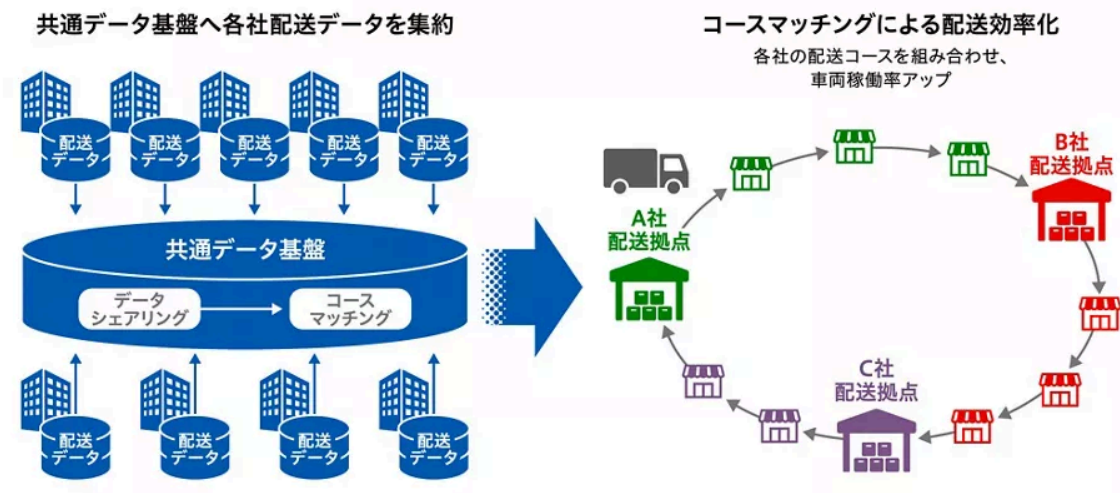
花王株式会社(以下、花王)と三菱食品株式会社(以下、三菱食品)は、本日付で、業界横断の荷主連合による共同配送コンソーシアム「CODE(Cargo Owners' Data-driven Ecosystem)」を発足します。

また、旭食品株式会社、株式会社あらた、株式会社トーハン、日本出版販売株式会社、株式会社PALTAC、三井物産流通グループ株式会社、株式会社メディセオは本取り組みの理念に賛同し「CODE」に参加することをお知らせします。

本コンソーシアムは、2026年4月より活動を開始し、「支線配送^{*1}」領域における参加企業間の輸配送データの共有と共同配送の検討を進めてまいります。

* 1 支線配送は、物流拠点から店舗や納品先まで届ける近中距離の配送をさします

共同配送コンソーシアム(CODE)のイメージ



本取り組みのスキーム

本コンソーシアム発足の目的・意義

日本国内では、労働人口の減少や「物流2024年問題」により、トラックドライバーの担い手不足が深刻化し、従来の物流の維持が困難になりつつあります。さらに2026年には改正物流効率化法に基づく取り組みが本格化するなど、物流課題への対応の重要性は一層高まっています。こうしたなか、物流リソースの稼働率向上や配送効率化など、個別企業の取り組みにとどまらず、業界横断での対応が求められています。

従来、「幹線輸送^{*2}」領域においては、混載及び帰り便活用による共同配送や中継輸送による日帰り運行など、様々な取り組みが検討・実行されてきました。一方で、地域圏内における物流拠点間の輸送や、物流拠点から小売店などの納品を担う「支線配送」領域では、納品条件に合わせた対応が必要なことから、荷主企業間の連携は限定的でした。

花王と三菱食品は、ともに大規模な支線配送を担う荷主企業として、両社の配送実績データを活用した、共同配送の定期運行を開始しています。このたび、共同配送成立機会を最大化するため、食品・日用品・医薬品・出版の業界にまたがる9社の荷主企業による、流通業界の共同配送コンソーシアム「CODE」を発足しました。混載や帰り便活用による積載率向上、トラック台数の削減による「支線配送」領域における効率化の実現をめざします。

なお、花王と三菱食品の間での一部地域（西東京・北海道等）の定期運行では、年間運行台数約300台相当削減、年間CO₂排出量約10トン削減などの成果が得られました。

* 2 幹線輸送は、工場・物流拠点・地域間を結ぶ中長距離の輸送をさします

本コンソーシアムの活動方針

本コンソーシアムは、以下の方針を掲げ2026年4月より活動を開始し、参加企業間の輸配送データの共有と共同配送の検討を進めてまいります。

①データドリブンな共同配送の実現

コンソーシアム形式で「多対多」のマッチングを行うため、従来の人手や暗黙知に頼った配車作業から、データドリブンに共同配送計画を組み上げることがめざします。コンソーシアムが整備する「データ基盤」と「コースマッチングツール」により、参加企業同士が共同配送できる可能性が高いコースの組み合わせを可視化できる仕組みを構築します。花王と三菱食品は、本ツールの開発・実効性検証を終え、共同配送におけるデジタルツールの有効性を確認しています。

②物流事業者・ドライバーにとっての取り組み価値の重視

物流業界が抱える課題の本質が「担い手不足」であることを踏まえ、実運行を担う運送事業者やドライバーにとっての価値創出を重視します。積載率や稼働率を高めて収益性改善に資する取り組みを、荷主の立場から推進します。具体的には、参加企業間で短稼働の運行同士を組み合わせることにより、車両あたりの稼働率の向上を図ります。

③データガバナンス・コンプライアンスの徹底

業界横断で荷主企業が共同配送に取り組むにあたり、健全な共同配送を推進するために、競争法上問題となる情報やデータの交換を防止するなど、データガバナンス及びコンプライアンスへ十分配慮した措置を講じます。

※コンソーシアム名称について

「CODE(Cargo Owners' Data-driven Ecosystem)」には、本取り組みが物流業界の新たな「コード(規範)」になることをめざす、また、「コード(プログラム)」の力を使って物流業界課題の解決をめざす、という意味を込めています。

今後の展開

今後、以下の取り組みを進めていく予定です。

①共同配送成果の最大化に向けたマッチング手法の研究

データ基盤やコースマッチングツールの継続的な改善を図ります。企業や研究機関などと連携し、物流業界課題の解決のために、蓄積されたデータの最大限活用を推進します。

②コンソーシアム規模の拡大

参画企業を拡大することで、流通業界の支線配送領域において、世の中の物流課題解決に寄与する共同配送のプラットフォームとなることをめざします。

③政府の物流政策との連携

花王と三菱食品は、経済産業省・国土交通省・農林水産省などの関係省庁と連携を図ってまいりました。本コンソーシアムは、データ活用による共同配送の普及を通じて、政府が推進するフィジカルインターネット実現に向けた先駆的な取り組みをめざしています。併せて、共同配送は、荷待ち時間の削減など物流現場の社会課題解決にも寄与するものであり、改正物流効率化法などを踏まえた対応策の1つとして推進します。今後も関係省庁と連携し、持続可能な物流の実現に貢献していきます。

各社概要

幹事企業(五十音順)

[花王株式会社](#)(代表取締役 社長執行役員:長谷部 佳宏)

[三菱食品株式会社](#)(代表取締役社長:伊藤 和男)

参画企業(五十音順)

[旭食品株式会社](#)(代表取締役社長:竹内 孝久)

[株式会社あらた](#)(代表取締役 社長執行役員:東風谷 誠一)

[株式会社トーハン](#)(代表取締役社長:川上 浩明)

[日本出版販売株式会社](#)(代表取締役社長:富樫 建)

[株式会社PALTAC](#)(代表取締役社長:吉田 拓也)

[三井物産流通グループ株式会社](#)(代表取締役社長:柴田 幸介)

[株式会社メディセオ](#)(代表取締役社長:今川 国明)



キーワードを入力してください

▼ 詳細検索

ピックアップコンテンツ

生活情報サイト My Kao

My Kao Mall(製品情報)

KBB Play Park

花王ケミカル製品情報

🔍 製品Q&A

💬 お問い合わせ

花王公式SNSアカウント



Home

花王について

サステナビリティ

イノベーション

ブランド

投資家情報

ニュースルーム

採用情報

利用規約

花王のアクセシビリティ

個人情報保護方針

利用者情報の外部送信

ソーシャルメディアポリシー

KAO

© Kao Corporation